

社長所感（4月）

「まさをなる空よりしだれざくらかな」（富安風生）

4月になると、なぜかこの句が浮かんできます。

多分、真っ青な空と枝垂桜の濃いピンク色の対比が鮮やかで、映像的にイメージしやすいからだろうと思われま

作者の富安風生は、虚子の高弟ですが、もともと通信省の役人で、中年の課長時代から本格的に俳句を始めたという経歴の人です。

冒頭の句のほかに、「よろこばばしきりに落つる木の実かな」、「みちのくの伊達の都の春田かな」、「きびきびと万物寒に入りけり」などの句があります。

さて、今年の桜ですが、開花は早かったものの、その後寒の戻りなどがあったため、例年より長く楽しめそうです。

私も、近くの砧公園で友人たちと桜と酒を楽しみ、さらに、東宝スタジオの照明スタッフがライトアップしている仙川沿いの夜桜を堪能いたしました。

桜前線はこれから1月以上かけて北上していくものと思われま

すが、わが国は南北に長く、全国各地に桜の名所も多いので、既に花見を楽しまれた方もおられれば、これから楽しもうという方もおられることと存じます。

桜と言えば、入学式、入社式など新しい出会いと別れがつきものですが、弊社にも、別れと出会いがありました。

17年にわたり、みな様にお世話になりました大島佳子が定年のため3月31日付で退職し、代わって山田夕子が着任いたしました。

大島主査は、持ち前の声の大きさと朗らかさで、ズバズバとものを言うタイプでしたが、みな様に暖かく対応していただき、本当にありがとうございました。

退職後は、四国を一週間かけてレンタカーで回るなど、今まで時間が取れなくてできなかったことを、まだ元気なうちにエンジョイしたいといろいろと計画しているようです。

山田主事は、若さと華やかさが特徴です。まだ、新人なので不慣れな点などあろうかと存じますが、暖かく見守っていただければ幸甚です。

多くの企業は、4月から新しい年度が始まります。弊社の場合は、事業年度が暦年と同じく1月1日から12月31日までで、既に新年度は始まっているのですが、それでも、桜が満開になり、街にフレッシュマン・ウーマンが溢れるこの時期になると、気分一新、頑張ろうという気になります。

「春風や闘志いだきて丘に立つ」（高浜虚子）
の句のように、新鮮な気持ちを忘れず、職務にまい進していきたいと思っていますので、よろしく願いいたします。